

# サンマ



## 生態的特徴等

### 【生態】

太平洋からオホーツク海の広い範囲を回遊する。春から夏にかけて黒潮域～亜寒帯水域へ北上し、8月以降に日本近海を南下する。産卵期は9月～翌年6月で、日本沿岸から東方沖合域の広い範囲で産卵する。1歳で約28 cmまで成長する（図1）。寿命は2年と考えられている。動物プランクトンを餌とする。

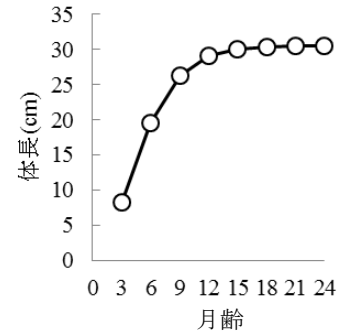


図1 サンマの成長

### 【漁法と盛期】

主に流し網、棒受網で漁獲される。流し網は7月に解禁され、棒受網は7～8月にかけて小型船から大型船の順に解禁される。

魚群の南下とともに漁船も移動する。H29年頃までは、10～12月に福島県沖～茨城県沖で棒受網の漁場が形成され、県内では那珂湊漁港や大津漁港に水揚げがみられた。

### 【利用】

刺身やなめろう、塩焼き、干物のほか、缶詰原料としても利用される。DHA、EPA、ビタミンDなど健康に良い栄養成分が豊富に含まれている。

## 資源水準は低位、減少傾向

（漁獲量）全国の棒受網によるサンマ漁獲量は、H12年以降増加傾向であったが、H21年以降は一転して減少傾向となり、R5年は24,433トンとなった（図2）。

県内漁港での漁獲量については、年によって変動がみられる。漁獲量の変動は茨城県沖周辺での漁場形成の有無によるところが大きく、H30年以降には茨城県沖周辺で漁場が形成されなくなったため、漁獲量は0～138トンとなった（図3）。

（水準と動向）資源水準および動向については、国の資源評価（R4年度）に従い、低位・減少とした。

水準



（国）

動向



（国）

### 【漁獲動向】

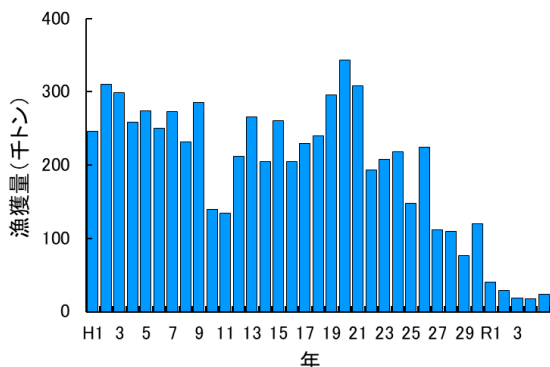


図2 全国サンマ漁獲量の推移

北海道から千葉県沖で操業する棒受網の漁獲量で、全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

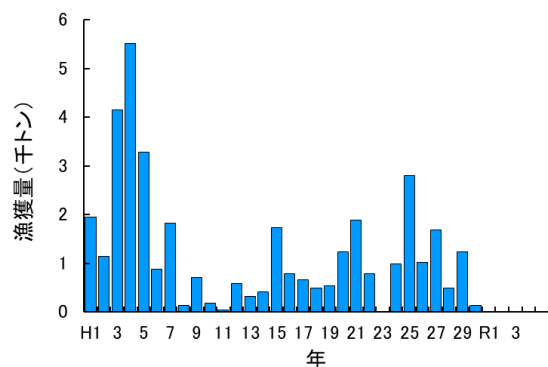


図3 茨城県におけるサンマの漁獲量（棒受網）

全国さんま棒受網漁業協同組合の集計値

- ・北海道が漁獲量第1位。2位は岩手県、3位は宮城県。（R4農統）

評価期間：令和4年1月～12月 更新日：令和6年3月27日